

横から見た台風

里見 一 男

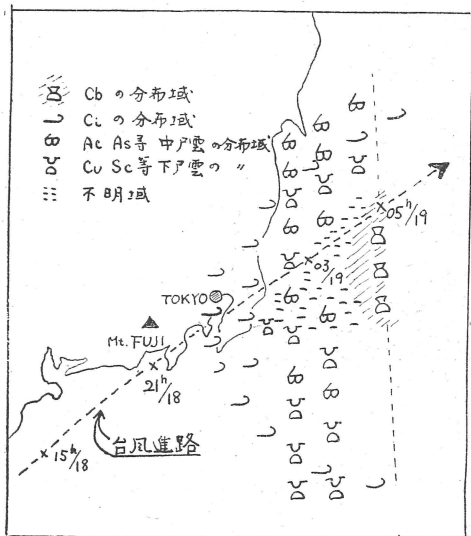
台風14号が、房総東方に去った、19日5時00分富士山頂から、この雲域と想いのを見てその Snap Photo と Skech をとったので、何かの参考に供したい。

18日22時40分台風は富士に最も近接し、22時30分東京湾入口を北東進して鹿島灘にぬけた。富士山頂では19日02時までは全く霧に閉ざされていたが3時には、霧が切れ始め、4時には晴れとなった。

雨後の寒気内の視程は非常に良く、薄明と共に房総の東海岸線まで明瞭に見え、4時45分日光のシエルエツトとなった雲域が見えてきた。これは約30分間で、日が雲の上に出るに従って散乱光のため、かすみ始め5時55分視程外となった。この時の Sketch, 写真について若干説明する。

東の東京湾中部の遠方に積乱雲の雲域があり、右側は積雲もしくは層積雲層がほぼ南東まで断続、その上に中層雲層が下層雲域の中間位まで拡がっており、左側は下層雲層がNEまで連続、中層雲層はNNEまで断続していた。これら両雲層の間ははっきり区別でき、地球の曲率を考慮すると200km以内の雲と推定できる。積乱雲の下部は暗黒で雲の種類は分らなかった。積乱雲の上部は巻雲がかなとこ型となり上限がはっきり見えた。これらの雲域の上部には近距離の毛状、及び濃巻雲が環状に拡がりその間からは空が見えていた。下の雲域の広さは右側は薄くて広く、左側は狭いが比較的連続していた。

次に館野の18日24時(最も接近した時刻)19日03時、12時の資料を見ると24時は上層まで超湿潤断熱過程で雲の切れているのは圏面界の逆転層と思われ、この



第2図

高度とかなとこの上限を対応させて、写真からこの距離を出すと450kmとなり、ほぼ台風位置までの距離と一致して居る。又上の巻雲の最も近い距離を03時12分の資料と写真から出して見た所71km離れており、地上観測資料とも一致して居た。それでこの雲域について広さを計算して見るとおよそ第1図の如くであった。第2図はこれから書いた雲の分布推定図である。

以上簡単に説明を加えて何か参考にとり報告する。

(定点観測部 海上気象課)